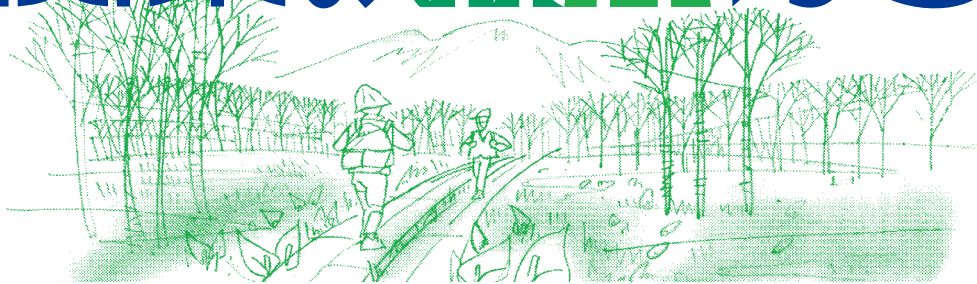


平成21年 3 月 1 日

第60号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL (027)210-1158

FAX (027)210-1159

<http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/>



桃畑と南アルプス鳳凰三山（山梨県韮崎市中田町）

（撮影：山梨森林管理事務所 奥石英明）

美しい森林づくり

平成 20 年度 業務・林業技術等発表会開催される

指導普及課

私の視点

「魅力湧く高尾山稜」

フォレストサポート・高尾（FS 高尾）

代表 渡部 三郎氏



広報「関東の森林から」は、日本の森林を育てるため間伐材を使用しています。

美しい森林づくり

平成20年度

業務・林業技術等発表会開催される

指導普及課



発表風景

2月17日(火)・18日(水)の二日間、平成20年度業務・林業技術等発表会が、関東森林管理局において開催されました。
職員はもとより、管内の各県をはじめ関係機関の職員、一般の方々と延べ250名の聴講者がありました。
発表に先立ち、小林局長から「発



質問を受ける発表者

表成果については審査委員の皆様判断していただくこととなりますが、データの収集や地域との連携など、各職員が努力したそのプロセスが大事であり、今後の業務においても職員一人一人が工夫・努力を積み重ねていただきたい」との挨拶がありました。

発表会では、地域と連携した森林環境教育や森林整備への取組、これからの複層林施業、病虫害やシカ等



小泉教授による特別講演

による病獣害対策等について、森林管理署等の職員から16課題が発表されました。
各発表とも、日頃の調査・研究で得られた成果を取りまとめたものであり、今後の森林・林業の発展に寄与するものです。
二日目は、東京学芸大学小泉武栄教授をお迎えし、「地形・地質からみた森林の植生分布」をテーマとした特別講演をいただきました。
地形や地質とそこに生育している植物との関係等について具体的な事例を交えながらの講演は大変興味深く、業務上の参考になるだけでなく、講師のわかりやすい説明は、研究成果の発表方法やまとめ方などの参考にもなるものでした。

特別講演終了後、審査委員長であ



最優秀賞を受賞する蛭間さん

受賞者は次のとおりです。

最優秀賞

『地域発案システムによる森林整備事例』地域とつくる「埴町西部ふれあいの森林」
蛭間 敦子 (棚倉森林管理署)

優秀賞

『造林地におけるアシナガバチの営巣密度調査とその結果報告』
仲田 昭一・三村 勝博 (森林技術センター)

優秀賞

『富士山国有林におけるシカによる樹皮剥皮被害の実態』
千葉 賢史 (静岡森林管理署)

優秀賞

『複層林施業地における施業方法の一考察』
戸邊 賢・堀口 剛 (茨城森林管理署)

る藤江計画部長から今回発表された課題毎の講評と審査結果が発表され、優秀な発表に対して局長から表彰状と記念品が授与されました。

赤谷プロジェクト近況報告

「ニッセイ緑の環境講座」で 赤谷プロジェクトの取組を講義



赤谷プロジェクトと森林環境教育について講義

1月21日（水）、ニッセイ緑の財団主催によるニッセイ緑の環境講座「森林環境教育を学ぶ」シリーズの第2回目が開催され、「生物多様性から見た森林環境教育」をテーマとして当センター所長と（財）日本自然保護協会保護プロジェクト部副部長が、一般の方々150名を対象に、赤谷プロジェクトの概要や赤谷プロジェクトにおける環境教育の取組等について、先般開催された「環境教育・関東ミーティング2008AKAYA」の結果などを交え講義を行いました。

質疑応答では、「環境保全や森林環境教育の取組にどうすれば行政側を巻き込んでいくことが出来るのか。」「活動していく上での資金面の手当はどうなるか。」などに大きな関心が集まりました。講義が終了した後も、個別に各地で活動している方々と交流することができ、今後の赤谷プロジェクトの活動の拡大につなげていきたいと考えています。調査研究を進めていきたいと考えています。

「モリゾー・キッコロ『森へ行こうよ!』」の撮影

「赤谷の森」も雪をまとい、冬景色を見せてくれることが多くなりました。そんな中、NHK教育番組「モリゾー・キッコロ『森へ行こうよ!』」の撮影が行われました。

この番組は以前にも紹介しましたが、子供達が平成17年に開催された愛知万博のキャラクターでもあるモリゾーとキッコロが様々な自然を観察、体験することを通じて、生きものと環境の関わり、人の暮らしとの関係について学んでいく環境教育番組です。

今回も地元小学生が数名参加し、雪の下や近くのコナラ林で越冬している生きものの調査などに取り組みました。

撮影された内容は、3月7日（土）に「春はまだかな？冬の生きもの探偵団」として放送される予定です。是非、冬の「赤谷の森」の様子を楽しんで頂ければと思います。

放送チャンネル NHK教育テレビ

放送時間 毎週土曜日 9時50分～10時5分

（再放送：毎週日曜日17時35分～17時50分）



雪を掘って、越冬中の生きものを調査

猛禽類モニタリングワーキングの開催

1月31日（土）、平成20年度第3回猛禽類モニタリングワーキングが開催されました。

その中で、イヌワシ・クマタカの繁殖成績やハンティング場所の調査報告、落葉期と展葉期における行動範囲の違い、来年度の調査体制等について話し合われました。

今後は、イヌワシ・クマタカの営巣地の保護、狩り場の特定・確保、餌となる動物が増えるような森づくりなどについて、引き続き基礎的データの収集を図りながら、より一層調査研究を進めていきたいと考えています。



山崎座長を交えてのワーキング

赤谷森林環境保全ふれあいセンター

各署だより

下越署

「越後スギ」の新庁舎で

愛される森林管理署を
目指す

越後の新潟では今、NHK大河ドラマ天地人「越後の智将『愛』直江兼続」で盛り上がっているところだ。

当署は旧新発田城のお堀の端に築城（建築）されております。

この周辺も今ではコンクリート色の建物があちらこちらに見られ、昔の面影が薄くなりつつありますが、我が城は、地域に『愛』される施設として周囲の歴史的修景に調和するよう、大規模木構造建築を採用し、新潟県産の「越後スギ」を使用し、2月9日（月）には、落成式



新庁舎が完成し表札を掲示する局長（右）と署長（左）

を開催することができました。

落成式では、関係機関・団体の長など40名のご臨席の下、小林局長及び千葉署長による庁舎表札掲示、来賓の方々によるテープカットなどが行われ、新潟県知事及び新発田市長からのご祝辞を賜り式典は滞りなく終了しました。

また、午後からは「新庁舎完成見学会」を開催しましたが、参加者からは「木の香りが何ともいいですね」などの感想が寄せられました。当日

茨城署

「林業技術向上研修会」を開催

1月19日（月）に東京事務所、茨城県、茨城県林業協会の共催により、伐出作業の効率化・低コスト化の普及、定着を進め、林業事業者等の一層の技術向上を目的とした、「林業技術向上研修会」を林業関係者等150余名が参加して、高萩市において開催しました。

研修会は、午前中会場において、東京事務所長による「我が国の森林・林業の現状と課題」について、茨城県林業技術センター長による「機能豊かな森林づくり」について、午後から現場に移動し、松ヶ岫（まつがき）国有林において東京事務所所長指導官が「低コスト作業道」について、また（有）佐川運送所有

NHKの放映もあり、後日、地元の方が「集会場の新築の参考」にと見学にこられ、早速、「越後スギ」による新庁舎建築の効果が現れました。

落成式当日、千葉署長からあいさつがあつたように、「地元にしつかり根をおろし、『愛』される森林管理署」を目指し、職員一同職務に励みたいと思います。



現場での研修会

林において、（有）佐川運送代表取締役が講師となり「低コスト作業システム」について講演が行われました。研修会を通じて、受講者には、高性能林業機械を活用した効率的な作業システムの構築を進める必要性を認識してもらいました。

（流域管理調整官 木皿仁志）



下越署

国有林のフィールドで
緑の担い手が研修

1月8日(木)、新発田市田ノ頭国有林内で緑の担い手育成のため除伐作業等の研修が行われました。



国有林内での研修風景

この研修は、林野庁で推進している「緑の雇用担い手対策事業」に基づき、当署長と地元さくら森林組合長との間で、研修活動フィールド協定を締結し実施されたものです。

さくら森林組合では新規採用者に対し各事業の研修を予定していましたが、研修にふさわしいフィールドが国有林にあったため、双方による現地確認等を実施した結果、当署で

は初めてとなるフィールド提供が実現できました。

さくら森林組合からは「21年度においても間伐の研修を国有林内で行いたい。」との要望があり、当署でも期待に応えられるよう場所選定に向け調査中です。

また、今回のフィールド提供を機会に各種会議等で紹介し、他の事業体にも積極的に国有林が協力できるよう宣伝普及に努めたいと考えます。

(流域管理調整官 富樫仁栄)



塩那署

生態系に配慮した
森林管理をアピール

2月14日(土)、NPO法人オオタカ保護基金主催、塩那森林管理署後援による「森づくり、地域づくりシンポジウム」が那須塩原市の市民ら約100人が参加して開催され、生物の多様性の保全と共存する地域づくりについて、意見を交わしました。

このシンポジウムにおいては、署長からこれまで当署が実施してきた保護林や緑の回廊の設定と各種調査・事業活動及び地域住民参加による取組等について、「塩那森林管理署における生物多様性に配慮した森林管理」としてまとめて説明しました。

当署長ほか、日本自然保護協会横山常勤理事、オオタカ保護基金野中副代表、塩原野生動物研究会君島代表によるパネルディスカッションでは「人も自然にもぎわう那須塩原を目指して」と題し、会場からの質問などを受けて意見交換しました。

「自分たちの周りに何があるか知らない人が多いこと。」「エコツアーの一人歩きやクマタカ等猛禽類への悪影響が心配。」「収益の一部を地元還元する。」などの意見がありました。



シンポジウムに参加の皆さん

また、「国、自治体、地元民が集い、那須塩原地域の生物多様性の保全のあり方の基本方針をつくる必要がある。」と取りまとめました。

(流域管理調整官 藤原孝吉)



森林官からの おたより

警城森林管理署 葛尾森林事務所

森林官 仁平明彦



私の勤務する葛尾森林事務所は、福島県浜通り北部の葛尾村一帯と浪江町の一部にまたがる区域を管理しています。

葛尾村は人口およそ1,600人程度の小さな村ですが、阿武隈高原に位置しており、避暑地としては最適な村です。そのため村内には宿泊可能なキャンプ場「もりもりランド」や別荘などが建設されており、夏場には利用者のにぎやかな声も聞かれます。



水源を見る参加者の皆さん

ら買い求めに訪れる人も多くいます。

管内の国有林はアカマツを主体とする森林約4,800ヘクタールほど、村を囲うように位置しています。

また、管内には五十人山・日山(天王山)とも呼ばれます。竜子山(別名葛尾富士)・手倉山の四つの山があり、多くの登山客が一年を通じて訪れています。

その中でも五十人山と日山は毎年山開きがおこなわれており、山頂で行われる美女コンテストには毎年多くの人が参加して賑わいを



紅葉の高瀬川溪谷

見せています。他にも管内を流れている高瀬川溪谷は四季折々に見える美しさから、森林浴や写真を撮りに来る人が多く訪れています。

昨年の10月には「あぶくまの水源を歩こう」というイベントで、国有林内から湧き出ている水源地を多くの方々に見ていただき、森林や森林を整備することの大切さを理解してもらえたのではないかと思います。

その一方で、心ない一部の人的により毎年多くのゴミが捨てられ、地元ボランティアの協力を得てゴミを片付



「うつくしま森林隊」による看板の設置

けているというのが現状です。

昨年も何度か地元ボランティア団体である「うつくしま森林隊」の方々にゴミ拾いやゴミの持ち帰りを訴える看板を設置するなどの活動を行っていただいています。ですが未だにゴミが捨てられ続けています。

この美しい自然を見て、なおゴミを捨てていくという行為に対し、非常に残念でなりません。しかしながら、地元ボランティアの方々の活動がいつか実を結び、この美しい自然を後世に伝えていくことができる我们相信しています。

また、我々も国有林に携わるものとして様々な活動に参加・協力して行くことが、自然を守り地元との繋がりを守っていくことになると考えており、今後も様々な機会を通じて関係を深め、信頼を得るよう頑張っていきたいと考えております。



日山(天王山)の山開き

私の視点

「魅力湧く高尾山稜」

フォレストサポート・高尾（FS高尾）

代表 渡部 三郎



東京都心から一時間足らずで自然が豊富な国有林に接することが出来る高尾山稜。「ミシユラン」の評価で再び三つ星マウンテンとして世界的に話題となっている。

標高600mそこそこの低山で年間250万人も登り訪れるという高尾山。

一方、日経新聞（07・4・14）に

四季を通して

楽しめる自然

の宝庫、東日

本のおすすめ

ハイキング路

として高尾山

がNo.1に掲載

された。因みに西日本では一位が六甲山（兵庫県）：何故。人々はこのように高尾山に愛着を感じ訪ね登るようになったの



玲瓏なる富士

であろうか。

空気の汚染・喧噪化した都市、高層化の事務所・マンション生活等々より所のない都市環境に耐えられなく、本能的に自然を求め、郊外の緑豊かな地域を求めるという人間の生理的現象にも一因があるのでは…

従って、一番身近でそれも近距離で四季を通して豊富な自然に触れる事が出来る魅力的な高尾が標的になっているのではなからうかと思ふ。

特に、2007

春から高尾山稜南面の国有林が間伐等により丹沢山塊、富士山に連なる山々の展望、四季折々が素晴らしい。格別に冬季の快晴の日には紺碧の空に真白い丹沢山塊に玲瓏な類な



治山ガーデン周遊歩道の整備

き富士の景観はスイス・アルプスの街、ツエルマットから登山電車で登った標高3,130mのローデンボーデン駅から眺めた目前に広がる「モンテローザ（4,634m）〜マッターホルン（4,478m）の連山」にも匹敵するミニ版のように感じる。

私は高尾に登る度に、この魅力湧く景観に強く感動し生き甲斐を感じ、登山を続けている。

「フォレストサポート・高尾（FS高尾）」、日本三大森林センターと言われる「高尾森林センター」が毎年度各種のイベントに取り組まれている。その一つとして森林カレッジ（除伐、下刈、間伐、炭焼き体験等）の公募イベントがあります。このカレッジ講座に数回参加し、これらの体験を活かし、さらに、自然環境の保全、自然に親しむ活動、自然保護

に関する活動等をしたいと願う希望者が数多くいます。これらの中の一部の者は既に森林センターの要請を受け、ボランティア活動を行ってききました。

その活動はセンターの技術的な指導等の支援を受け「いろはの森（林道・治山ガーデン周遊歩道）のベンチの修復・除伐・階段・歩道橋（未完成）の整備等を実施しました。

高尾森林整備のボランティア支援活動を組織的・本格的に運営するためには、正式な名称・目的・事業・会員等のルールが必要で、高尾森林センターの助言をいただきながら、会則等を具体的に策定し、二十一年度から本格的に作業活動を進める運びとなりました。



高尾地域の国有林と景信山

一枚の写真



高尾森林センターの炭焼窯

ミシユランの三ツ星観光地に選ばれた高尾山。年間250万人といわれていた登山者もあきらかに増加傾向にあるようで昨年の11月には1日で7万5千人が登られたようです。標高599mの山ではありますが、都心から約50キロメートルということから気軽にこられる方も多いようです。

高尾森林センターは高尾山の国有林を活用して各種のイベントを行っています。冬シーズンは何といても炭焼きです。一般公募で行うものもあれば、依頼により行うものもありです。

一般的にイベントを行う時には天気予報が気になります。雨が降ればキャンセルはできるし、内容の変更も考えなければなりません。ましてや炭焼きとなれば、火がつかない!ということになり、内容の変更もできないことから、イベントの開催そのものを中止しなければなりません。

この自然学習体験施設は平成17年3月に建てられたもので、ドラム缶釜に屋根がついた、私たちにとって

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027) 210-1115
FAX (027) 210-1159

もう雨の心配はありません。建物の中のスペースを利用して花炭もできれば、炭材や薪を濡らすことなく保管することもできます。

何も気にせずに準備にかかることのできるこの建物。高尾森林センターの宝物です。

(高尾センター)
広報連絡官 幾久正行

細野地区における オオタカ等森林施業

検討委員会を開催



群馬森林管理署では、オオタカ等の生育環境の改善と木材生産の両立に配慮した森林施業を行っていくことを目的に、細野森林事務所管内の国有林全域をモデル地区(通称「オオタカモデル林」とし、地域管理経営計画等の策定に向けて有識者等を交えた検討委員会を設け、具体的な施業案の検討を進めています。

検討委員会では、(独)森林総合研究所石塚コーディネーターを座長とし、日本野鳥の会群馬県支部浅川支



有識者による現地検討会

部長及び日本オオタカネットワーク遠藤代表の計3名の委員と、オブザーバーとして、関東森林管理局及び群馬森林管理署の関係職員が出席し、署会議室において昨年11月と今年1

月の2回、細野森林事務所管内の現地では昨年12月18日に検討会を開催しています。



オオタカ

今後も、森林施業(オオタカ施業)を進める上で、その効果を検証し、より効果的な施業方法に改善していく必要があることから、オオタカの生息状況や採餌行動、森林の利用状況等を観測するため、発信機を用いた追跡調査等のモニタリング調査を実施する予定です。

(群馬署 流域管理調整官 今井邦彦)

お知らせ

毎月皆様にお届けして参りました広報誌「関東の森林から」は、4月号から当局ホームページへの掲載という形で発行することとなりました。

これまで紙面にてご愛読の皆様には多少ご不便をおかけしますが、引き続きご愛読いただきますようお願い申し上げます。

関東森林管理局ホームページ
<http://www.kanto-kokuyuin.go.jp/>

